**広島の中心で"中国の核なき世界"を叫んだオバマ氏**

[金子秀敏 / 毎日新聞客員編集委員](http://mainichi.jp/premier/business/%E9%87%91%E5%AD%90%E7%A7%80%E6%95%8F/)

　オバマ米大統領が広島を訪問し「核なき世界の追求を」と呼びかけた。現職の米国大統領で初めての広島訪問だった。「核なき世界」と言うオバマ氏だから、原爆投下に謝罪の言葉があるのではないかという期待が日本側にあった。

　だが、オバマ氏の頭に謝罪という言葉があっただろうか。訪日前、メディアに聞かれて「ノー」と答えている。それでも日本人は原爆投下への謝罪を期待した。オバマ氏の言う「核なき世界」の意味が見えていないからだ。２００９年、プラハで最初に「核なき世界」と言った時は「ロシアの核のない世界」の意味だった。今回、広島で言った時は「中国の核のない世界」という意味だ。「米国の核」はその次の問題だ。

### ベトナムでも「謝罪」はしていないオバマ氏

　日本に来る前にオバマ氏はベトナムを訪問した。ベトナム戦争後、現職の米国大統領がベトナムを訪問するのは初めてだ。ハノイで記念演説をした。ベトナム戦争では米軍は大量の枯れ葉剤ダイオキシンを散布した。そのために重い障害を持つ障害児が多数生まれた。この問題にオバマ氏は謝罪しただろうか。

　「ベトナム戦争は両国に苦痛と悲劇をもたらした」と言った。両国の痛み分けで、謝罪ではない。戦死者についてはどうだろうか。「３００万人のベトナム国民と５万８０００人の米国人が命を落としたことを忘れてはならない」と言った。哀悼の気持ちを示してはいるが、北ベトナム、南ベトナムの死者をひとくくりにして敵味方の区別を消した。どちらがどちらをどれだけ殺したかがわからないようにしている。

　ベトナム戦争で米国は敗退した。だが、オバマ氏は「戦争が起きたのは、冷戦と共産主義への恐怖のためだ」と言い、戦争を始めた責任を当時のソ連のせいにした。拍手は少ない。演説の後段で、「大国が小国をいじめてはならない」と、南シナ海の軍事支配を強める中国をけん制した。さらに「米国は南シナ海を自由に航行する権利を守る」と、ベトナムに共闘を持ちかけた。これでやっと会場の拍手が増えた。

### 広島訪問も「アジア・リバランス」戦略の一部

　昨年、ロシアと中国はモスクワの赤の広場と北京の天安門広場で大々的な軍事パレードをやり、最新鋭の核ミサイルをずらりと並べてオバマ氏を脅した。オバマ氏はこのミサイルをなくせと、北京に聞こえるように広島で「中国の核なき世界」を叫び、南シナ海まで届けとハノイで「航行の自由」を叫んだのだ。

中国は南シナ海に米国本土を狙う核ミサイルを積んだ潜水艦を配備する準備を進めている。この潜水艦を米軍の偵察機や軍艦から守るために、南シナ海の要所を埋め立てて人工島を造りレーダーやミサイルを配備中だ。これに対抗して米国は南シナ海から東シナ海、日本海、オホーツク海にかけてミサイル防衛（ＭＤ）網を整備している。これがオバマ大統領の「アジア・リバランス」戦略であり、大統領としてのレガシー（遺産）になる。そんなオバマ氏の頭に原爆投下を謝罪する気持ちはなかったのだ。